

カトリック河原町教会だより

2017年9月

「洛東ブロック平和祈願ミサ」山科教会で祈りを共に



「いつくしみ深い神よ、あなたはひとり子イエスの栄光の姿を示し、弟子たちを信仰へと導かれました。わたしたちが、まことの平和の実現に向かって、忍耐と勇気をもって主に従うことができますように。(共同祈願の結びから)」

8月6日(日)午後2時から、山科教会に洛東ブロックの4つの教会の信徒が集い、一場神父司式による平和祈願ミサがささげられました。この日は「主の変容」の祝日であり、また広島原爆記念日と重なり、真の平和を願って皆で祈りをささげました。

一場神父は説教で「平和とは、すべての人の命が輝きを放っている状態です。それは自分のことだけを考えて生きる命ではなく、お互いを分かち合い、支え合い、心配し合い、わたしに何ができるのかを考え、誰かのために自分を犠牲にし、死ぬことで生まれる命です」と話されました。そして「教会は、目の前にいる人を大切にし、言葉を交わしながら命の交流を大切にして共同体を生きること、世界平和につなげることができるでしょう」と語られました。

この日の京都は猛暑の一日でしたが、ミサ後は集会室で茶菓をいただきながら楽しい交流の時間を過ごすことができました。(編集委員)



「いつくしみの新たな業」

教皇フランシスコ「被造物を大切にす世界祈願日」メッセージ(2016.9.1)から

「いつくしみのわざほど、わたしたちを神と結びつけるものはありません。いつくしみによって、主はわたしたちをゆるし、ご自分の名のもとにいつくしみのわざを行う恵みを与えてくださるからです」…(中略)

「人間のいのちそのものと、そのいのちに含まれるすべてのもの」の中には、わたしたちの共通の家を大切にすることが含まれます。したがって、七つのわざからなるこの二通りの伝統的な慈善のわざに一つ、補足することを提案させていただきます。慈善のわざに、「わたしたちの共通の家を大切にすること」が含まれますように。



精神的な慈善のわざとしての「わたしたちの共通の家を大切にすること」は、「神の世界を感謝のうちに観想すること」(回勅『ラウダート・シ』214)を必要とします。その観想は、「神がわたしたちに届けようとお望みになる教えを、一つ一つのものの中に発見させてくれます」(同85)。身体的な慈善のわざとしての「わたしたちの共通の家を大切にすること」は「暴力や搾取や利己主義の論理と決別する、日常の飾らない言動」(同230)を必要とします。このわざは、「よりよい世界を造ろうとする一つ一つの行為において感じられます」(同231)。

比叡山宗教サミット30周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」

比叡山宗教サミット30周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」が8月3～4日に開催されました。聖ヨハネ・パウロ二世教皇が最初にイタリアのアシジで「世界平和の祈りの集い」を行ったのは1986年のことです。このアシジの集いの精神を受け継いで、延暦寺の山田恵諦天台座主の呼びかけによってサミットが始まりました。以来、毎年夏に比叡山延暦寺で行われています。

今年は30周年記念の式典で、8月3日の午後1時から京都国際会館で開会式典が行われました。その中、教皇フランシスコ名代ジョン・トン・ホン枢機卿(香港教区司教)が教皇メッセージを読み上げ、教皇は、暴力やテロリズム、地球への脅威などで傷つく現代世界において、平和を祈り、祈りによって互いが尊重し合い連帯による平和実現への歩みの大切さを伝えました。

海外からのカトリック関係代表者は6名の方が来日され、長崎教区の高見三明大司教と、例年通り大塚喜直司教も参列されました。今回のテーマは、「今こそ平和の協調を～分裂と憎悪を乗り越えて」で、明石康氏(元国連事務次長)とウィリアム・ベンドレイ氏(世界宗教者平和会議総長)の基調講演が行われました。続くシンポジウムでは、「テロと宗教～暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか」をテーマに、パネリスト7名の発表も行われました。

4日の午後からは、比叡山延暦寺で「世界平和祈りの式典」が開催され、参加者約1300人が祈り、平和の鐘が打ち鳴らされ、比叡の山々に響き渡りました。挨拶に立った代表者も、たくさんの参加者も、子どもたちを交えて皆が手をつなぎ、宗教を超えて平和への思いを誓いました。

(編集委員)



8.3京都国際会館で



8.4



[下2枚/写真提供: 京都教区広報委員会]

「京都(みやこ)の大殉教」を伝えていこう

7月16日例会では、当教会信徒の嶋崎賢児さんが7月1日の「福者ペトロ岐部司祭と187名殉教者」の記念日に合わせ、「京都の大殉教」について話してくださいました。

嶋崎さんは長崎県海外出身で、先祖は潜伏キリシタンです。キリシタン研究に造詣が深く、近著に『高山右近の足跡を歩く』(三学出版)があります。

皆さんは、1619年10月6日に火炙りの刑によって殉教した15歳以下の子ども11名を含む52名の殉教者を記念して建てられた六条河原の「殉教の碑」をご存知でしょうか。この碑が建立されたのは殉教から375年を経た1994年でした。碑の下には白い壺が埋められており、中には52名の名前を記し赤いバラを飾ったりボンが入っています。完成時に中山正美画伯の絵葉書(右下絵)や結城了悟神父著『京都の大殉教』の本、殉教碑建立のために献金を送ってくださった全国の寄付者名簿などを一緒に納めて、建立委員が祈りを捧げていた折、晴れ渡った空から突然雨が降ってきて皆驚いてしまいました。もしかすると、400年近く忘れられていた殉教者たちの感動の涙だったのかもしれないと思うほどでした。記念碑は田中健一司教によって祝別されました。

当時、キリシタン迫害時代の日本の三大殉教は、京都(1619年52名)と長崎(1622年55名)、江戸(1623年51名)の三つです。これら三つの殉教は火刑でしたが、京都の殉教者が他と違うのは、宣教師や修道者は一人もおらず皆一般信者だった

7月ぶどうの会例会から

ことです。列福までには長い歳月がかかり、長崎で列福式が行われたのは2008年11月24日です。この列福運動には1981年に来日されたヨハネ・パウロ二世の「日本は殉教者の国であり、他にも殉教者がいるのでは」という言葉が列福促進に拍車をかけたということです。

そして大塚司教は、この列福を機に、52名の殉教者を記念して教会聖堂後方の告解室に「殉教の間」を設けられたのです。

さて、52名が捕らわれた経緯は、当時伏見に滞在していた徳川秀忠の「キリシタンは火炙りに」という命令によるものでした。幼い子どもが含まれていたということも京都の殉教者の重要な点です。テクラ橋本始め、数人の婦人が我が子と共に火刑に処せられました。燃えさかる炎の中でテクラ橋本は「辛抱しなさい、すぐ天国で会えますからね」と13歳の娘カタリーナを励ましたそうです。

殉教した信者たちは、河原町教会に深いつながりがあります。私たちは、この史実を単に過去の出来事とするのではなく、その信仰の足跡を忘れることなく見つめ、多くの人に伝え続けてゆくことが大切だと思います。

(要約:編集委員)



中山正美画: パチカン美術館秘蔵

「聖母の被昇天」ミサをささげる 8.15



日本の終戦記念日である8月15日は、「聖母の被昇天」の祭日です。7時からのミサは菅原神父司式、10時半からのミサ是一场神父司式でささげられました。一場神父はこの日のルカ福音書を通して、マリアがイエス誕生の予告を受けてすぐ、危険も顧みずにエリサベトを訪ね3ヶ月間留まったという出来事から、神のみ旨のみに従って生きるマリアの信仰を語られました。犠牲をいとわず、神と隣人のために身も心もささげ、苦しみの中でも感謝と賛美をささげたマリア。マリアが真に「幸いな人」と呼ばれるのは、神への信頼と喜びに生きた、まさにその信仰に拠ることを説教を通して示されました。(編集委員)

ティツィアーノの絵画にみる「聖母被昇天」

(1485年頃～1576)



ルネサンス時代に活躍したヴェネツィアの画家、ティツィアーノの「聖母被昇天」は高さ7m、幅3.5mです。ヴェネツィアのサンタ・マリア・グロリオザ・デイ・フラリ聖堂の聖壇画として描かれました。

この絵では地上に立つ弟子たちを残して、聖母は天使たちによって空高く運ばれています。神が天上で聖母マリアを待っています。地上と空中と天上の三つは、それぞれの動きとまなざしと色彩によって、互いにひとつに結ばれているようです。

聖書の中に聖母の被昇天に関する記述はありませんが、『黄金伝説』という書には、聖母マリアの全生涯

についての伝承が残されています。長い時を経て、1950年11月1日教皇ピオ12世(在位1939～1958)は「聖母の被昇天」を次のように定義し教義として正式に発表しました。

「われわれの主イエス・キリストの権威と、使徒聖ペトロと聖パウロの権威、及びわたしの権威により、無原罪の神の母、終生処女であるマリアがその地上の生活を終わった後、肉身と靈魂と共に天の栄光にあげられたことは、神によって啓示された真理であると宣言し、布告し、定義する」(『カトリック教会文書資料集』3903)

マリアの被昇天は、神へと向かう私たちに、聖母と共に永遠の喜びに入ることができる希望を与えてくれるものです。(編集委員)

参考：女子パウロ会HP、『西洋名画の読み方1』(創元社)

河原町教会(8月6日)評議会議事録要約

司祭団から=①8/3・4の比叡山宗教サミットへの参加協力に感謝②本日14時、平和祈願ミサ(山科教会：一場神父司式)③濟州教区との交流に協力ください。④8/15濟州教区協働司祭の叙階式予定⑤8/27、10:30ミサはカトリック新聞社の松浦謙神父司式予定⑥9/3ブロック大会(伏見教会)には多数参加ください。

洛東ブロック会議=①7/22(土)14:00河原町教会で開催②9/2役員交流会開催予定③9/3の11:00洛東ブロック大会は司教ミサ。後、報告会と交流茶話会予定

比叡山宗教サミット=報告(今号p2参照)

各部会報告=(1)典礼部=①7/22洛東ブロック合同典礼部会開催②司祭減少のため、ミサ回数を減らすことは不可避③主日ミサの司祭移動が困難。主日ミサの時間帯見直しが必要④YBU小川神父・マクドナル神父にも協力依頼⑤洛東ブロック典礼研修会「病者訪問・集會祭儀」を今秋実施(指導：一場神父)⑥「青年のためのミサ」周知が必要⑦祭壇周囲の照明を要検討(2)財務部=①上半期の収支決算報告実施②維持費納入対策を検討。協力依頼を10～11月に開始(3)教育部=①土曜学校：①8/8～10錬成会に計39名参加予定。テーマ「聞く⇒知らせる～右近とパウロ～」②9/2子どもとささげるミサ、始業式②**中高生会**：①8/5～7教区中学生広島巡礼4名参加②8/21～24教区高校生夏の体験学習「函館での黙想会」参加予定1名③9/3、2学期開始④9/24コーヒーショップ③**信徒養成**：待降節黙想会開催12/2(10:00/指導：菅原神父)④**ブロック合同教育部会**：8/20部会予定(ブロック大会の検討)⑤**教区教会学校教師研修会**：8/26「教会学校運営について」(指導：大塚司教)リーダーの参加予定者8名⑥**キリシタン研究会**：「全国隠れキリシタン研究会2019」への対応検討⑦**ザビエル訪れ会**：①独居高齢信徒訪問は完了②財務部との連携で今後の活動検討(4)施設管理部=①7/30美化デー実施、聖堂椅子修理②10月の美化デーで地下テーブル修理と6番部屋整理を進める。(5)広報部=7月部会で「教会だより」発行回数の変更案を提出。広報部では発行を年6回とする案でまとまった。評議会の意見を求めたい。

行事予定=4ページ行事予定欄に記載

協議事項=(1)洛東ブロック会議①ブロック大会=9/3伏見教会で開催。内容の確認、打ち合わせを実施②10月例会で「求道者に同伴する信徒・養成講座」既受講者の活動状況を報告(2)敬老感謝ミサ・懇親会①概ね例年通り実施②手土産の再検討③余興について検討する。(3)新聖堂建立50周年行事 聖堂モニターは使用用途を検討し、再見積もり予定。機器操作担当者を検討**その他**=①「男性の集まり」第1回目を8/13開催②ミサ時間変更については来年7月までに検討する。③クリスマス市民の集い=9月にクリスマス実行委員会を開催予定

◇ 2017年9月・10月の行事予定 ◇
(10月は予定です。変更の場合があります)

月	日	曜日	行事予定
9	2	土	小教区評議会役員交流会 10:00
	3	日	洛東ブロック大会(伏見教会) 11:00 被造物を大切にす世界祈願日
	10	日	評議会9月例会 10:30ミサ後
	14	木	十字架称賛
	17	日	敬老感謝ミサ10:30・懇親会(ヴィリオンホール)
10	24	日	中高生会コーヒーショップ10:30ミサ後(1F集会室) 世界難民移住移動者の日(献金)
	1	日	ロザリオの祈り(10月毎日曜日10:00) 評議会10月例会
	22	日	世界宣教の日(献金)
	23	月	～27(金) 教区司祭黙想会
	28	土	洛東ブロック会議(伏見教会)14:00
	29	日	教会美化デー

敬老感謝ミサと懇親会のご案内

感謝ミサ 2017年9月17日(日) 10:30
懇親会 ミサ後 ヴィリオンホールで



毎年、75歳以上の信徒の方々と共に、敬老感謝ミサがささげられています。

ミサの後は、例年通りヴィリオンホールで昼食と交流、分かち合いのひと時をもちます。

お誘い合わせの上多数ご参加ください。お待ちしております。

9月第1日曜日は「被造物を大切にす世界祈願日」

回勅『ラウダート・シーとともに暮らす家を大切に』(2015年)で、全世界の人に向けて、エコロジー(環境保護)に取り組むよう訴えた教皇フランシスコは、東方正教会にならって、環境保護のための助けを願う日をカトリック教会の暦に加えました。地球規模の環境悪化が進む中、自然を破壊することなく、「わたしたち皆の家」である地球を大切にし、調和のうちに発展していくことができるよう、この日、全世界のカトリック教会で祈りがささげられます。命の与え主である神に賛美と感謝をささげるとともに、自然を大切にす視点から、ライフスタイルを見直し、考え方を改める機会としていきたいものです。(『カトリック教会情報ハンドブック2017』より引用)



◆教会では、「男性の集まり」が8月から新しくスタートしました。

毎月第2日曜日10時半のミサ後(ヴィリオンホールで)行います。名称等、多くの人の意見によって決めたいと思います。年代関係なく、男性の皆さん、是非参加してください。

門の聖句「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」

マタイ5・44

河原町教会 ミサの時間

日曜日(主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30 18:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 6:30 18:30

土曜日 6:30

18:30(主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

火曜日10:00 モンロイ神父(7~9月休会)

水曜日15:00(祝休) 一場 修 神父

木曜日19:00(祝休) 一場 修 神父

金曜日10:30(祝休) 一場 修 神父

19:15 村上 透磨 神父

金曜日17:30(洗礼準備講座) 菅原 友明神父

※ご希望の方は教会事務室までご連絡ください

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】第1土曜日19:30~20:30

菅原 友明神父

【山科教会】未定

【伏見教会】毎火曜日10:00ミサ後~11:30

一場 修 神父

【桃山教会】毎火曜日15:00 菅原 友明神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(6F会議室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

9月 6日(水) 10:30~11:50

10月 4日(水) 10:30~11:50

◇南部地区信徒養成講座◇

(1F集会室/毎月1回木曜日)

北村 善朗神父「祈りを学ぶ」

9月28日(木) 14:00

10月19日(木) 14:00

テキスト:『カトリック教会のカテキズム要約』

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日9:30~10:15

※どなたでもお気軽にご参加ください。